

平成12年度

# 国際標準化活動報告

平成13年3月31日

(社) 日本事務機械工業会  
ISO事務機械工業会  
第74委員会

# 1. ISO事務機械国内委員会・同運営委員会

委員長 尾上 守夫

## 1.1 活動概況

- (1) 総会 1 回（平成12年5月）、運営委員会 2 回（平成12年）を実施した。
- (2) ISO, IEC事務機械国内委員会規約類の改定を行なった。
  - 1) ISO, IEC委員手当支給内規  
従来の慣行を明文化した。
  - 2) ISO, IEC国際会議出席者の皆様へ（旅費手続きについて）  
従来の規定では対応できないケースをカバーするための特例を設けた。
- (3) 平成11年度決算、平成12年度予算の承認および平成13年度予算案作成を行なった。
- (4) 活性化施策の一つとして、アジア・太平洋地域の国際標準への関心を高め、日本の主張を理解しやすい環境作りのため、経済産業省の「アジア太平洋地域標準化体制整備委託事業」に応募した。（現在審査中）
- (5) 事務機械に関連の深いJTC1/SC35の審議団体をJBMAに移管してもらうべく、経済産業省/標準化、情報規格調査会に申し入れた。話し合いの結果、SC35参加のWG（1, 2, 3, 4）の審議団体をJBMAとすることとなった。
- (6) ホームページのリニューアルと充実を継続して行なった。
  - ・ドキュメントライブラリのコーナーの新設
  - ・メーリングリストを新設し、バーチャル会議を実施できる環境を整えた
- (7) 表彰規定により以下の各氏を表彰した。

苅部 浩、稲垣 敏彦、岩坂 貴弘、大久保 彰徳、沖田 利通、小久保 和人、  
越川 衛一、佐藤 浩、藤平 嘉行、中澤 明、中野 誠、堀口 敏夫、宮野 哲紀、  
村松 正男、森川 和徳、山崎 博史、吉岡 隆雄、細川 賢太郎

## 1.2 今後の主要課題

- (1) 各SC, WGの規格審議支援
- (2) JIS化作業の積極的支援
  - ・ ISO/IEC 7810の改訂に伴うJIS X6302の改訂
  - ・ ISO/IEC 7811-1, 2, 6の改訂に伴うJIS X6302の改訂

- ・ ISO/IEC10373の改訂に伴うJIS X6303の改訂
- ・ 「カードおよびカードシステム用語」の新規制定
- ・ IEC60950第3版制定に伴い「情報処理機器の安全性」の新規制定

#### (4) 活性化施策の実行

- ・ アジア太平洋地域セミナー
- ・ 成果発表会（カード部会、標準化センターと共催）
- ・ ホームページの充実と活用

## 2. SC17専門委員会(カード及び個人識別:Cards and Personal Identification)

委員長 大山 永昭

### 2.1 活動概況

当SC17は、プラスチック基板のカードに各種の技術（磁気、IC、電磁波IC、光記録等）を加えたカードの標準化作業の他、国際的な利用業務に関連した個人識別のための標準化（クレジットカード、パスポート、運転免許証等の関連文書を含む）をも担当している。傘下のWGは、WG10（運転免許証）の活動開始により国際は9WG、国内は8WG体制となった。（OWGを含む）

今年度の特徴としては、IT利用業務の普及に伴ってネットワークセキュリティやデータ保護・アクセス権の安全性のため当SC17が担当するICカード等が多方面で利用され始めた。利用業務が拡大するにつれ個人識別にパスワードや暗証番号に加えて、より高い安全性のためバイOMETリックデータの利用技術や暗号技術をICカードに記録・利用するためのNP提案がされ、担当のWGでは新しい規格開発作業が始まった。

#### <本年度の主要活動事項>

- (1) SC17国際会議（TITLEとSCOPEは、CARDS and PERSONAL IDENTIFICATIONと変更された）をわが国で開催（10月25日～27日）した。関連のWG（10-22/25, 10-30/11-02）も同時に行った。
- (2) 提案NPでは、ICカードの所持者認証用としてバイOMETリックデータを利用するための標準開発（独提案/CD7816-11案完成）、ICカードにRSA暗号を利用する際のトークン暗号標準開発（スウェーデン提案/CD7816-15案完成）がありWG4が担当した。
- (3) 2000年4月から2001年3月の1年間に開催されたプレナリー、WG、TF国際会議は合計 20回であった。その内、2000年12月のWG4会議を除き、全ての会議(19回)に出席した。出席者は、延べ82名であった。
  - a) プレナリー：2000-10-25/27, 新横浜プリンスホテル, 日本参加者 17名（関連のWGは含まず）
  - b) WG1（3回：延べ 11名）、WG3（3回：延べ13名）、WG4（3回：延べ 3名）、WG5（2回：延べ 2名）、WG8（3回：延べ 12名）、WG9（1回：延べ 5名）、WG10（3回：延べ 15名）、OWG（1回：延べ 4名）、WG7（0回：メール投票）

- (4) 投票・回答件数は、次の通りであった。(2000年4月～2001年3月末)  
提案NP 1件、FDIS 13件、DIS 1件、FCD 10件、CD 5件、PDAM 2件、DCOR 1件、5年見直し2件、IS 11件
- (5) 今年度は、各種の用途が具体化し規格制定が急がれたコンタクトレスICカード (ISO/IEC 14443及びISO/IEC 15693) の基本規格作業がほぼ終了、アプリケーション対応の追加規格作業 (ISO/IEC 14443-2 AM1 : タイプC、D、E、F、G) が始まった。
- (6) SC17/WG3 (パスポート、関連ドキュメント) では外務省旅券課と共に参加し、主にICカード、コンタクトレスICカードの技術面からの協力をしている。また、WG10 (運転免許証、関連文書) では車種・運転条件の記載事項等の取り纏めをわが国が担当した。運転免許証のタイトル及び構成 (ISO/IEC 18013-1/3) が決まった。
- (7) 国際貢献では、SC17起草委員 (廣川/GP Net) 、WG9のCONVENOR (吉岡/NTTデータオフィスマー) を担当する他、WG8ではコンタクトレスICカード3種類についてエディタ (加藤/デンソー) を引きつづき務めた。

## 2.2 今後の主要課題

今年度から作業を開始した IC カードのトークン暗号標準 (RSA PKCS #15 ベース) 、WG を横断するバイオメトリックスデータ利用の標準化プロジェクト体制 (OWG2) への対応等がある。

## 3. SC17/WG1 (IDカードの物理特性及び試験方法)

主査 寄本 義一

### 3.1 活動状況

- (1) WG1 国際会議は、以下のように3回開催され、それぞれの会議に3から4名が参加した。

平成12年6月6日から8日	カナダ	トロント市
平成12年10月23日から25日	日本	横浜市
平成13年3月6日(TF)、7日から8日	ドイツ	ブラウンシュバイク市

- (2) 国際会議の審議概況と主要成果

ISO/IEC 7810 (識別カード - 物理特性)

カードの透過濃度の再検討等の必要から SC17 横浜会議の決議に基づき FDIS から FCD 投票に戻した。

ISO/IEC 7811-1 (識別カード - エンボス) FDIS 投票

ISO/IEC 7811-2 (識別カード - 低保磁力磁気ストライプカード) FDIS 投票  
ISO/IEC 7811-6 (識別カード - 高保磁力磁気ストライプカード) FDIS 投票  
ISO/IEC 7811-7 (識別カード - 高密度高保磁力磁気ストライプカード) NP 了承審議開始  
ISO/IEC 15457-1 (薄型カード - 物理特性) FCD 投票  
ISO/IEC 15457-2 (薄型カード - 磁気特性) FCD 投票  
ISO/IEC 15457-3 (薄型カード - 試験方法) CD 投票

### (3) 国内会議

- ・国内WG1 会議は課題の検討の為に、月 1 回のペースでおこなわれた。
- ・横浜会議では、ホスト国の役割をはたす。
- ・視覚障害者用のカード挿入方法指示及びカード識別用のセルフマークの検討で共用品推進機構との会議を 2 回もった。横浜会議にて概要を説明した。

### 3.2 今後の主要課題

- ・ISO/IEC 7810 (識別カード - 物理特性) カードの透過濃度の再検討。
- ・ISO/IEC 7810 (識別カード - 物理特性) 改定に伴う ISO/IEC 10373 - 1 の変更。
- ・ISO/IEC 7811-7 (識別カード - 高密度高保磁力磁気ストライプカード) の検討。
- ・ISO/IEC 15457-1 (薄型カード) の検討。パート 3 試験方法の ISO/IEC 10373 への移動。

### 3.3 特記事項

- ・視覚障害者用のカード挿入方法指示及びカード識別用のマークの検討。

### 3.4 平成 13 年度の国際会議の予定

平成 13 年 6 月	フランス	パリ市
平成 13 年 10 月	カナダ	オタワ市
平成 14 年 3 月	ポーランド	ワルシャワ市

## 4. SC17/WG3(旅行用文書:MRTD)

主査 寄本 義一

### 4.1 活動概況

(1) WG3 国際会議は、以下のように 3 回開催された。

平成 12 年 5 月 24 日から 26 日	カナダ	オタワ市
平成 12 年 10 月 22 日 (NTWG との合同) 23 日から 25 日	日本	横浜市
平成 13 年 2 月 14 日から 16 日	南アフリカ	ノーザン・プロビンス

(2) 国際会議の審議概況と主要成果

- ・ ISO/IEC 7501 - 1 (ICA09303-1: 識別カード - 機械読取りトラベルドキュメント パート1 機械読取りパスポート) はファストトラック DIS の審議開始予定。
- ・ ISO/IEC 7501 - 3 (ICA09303-3: 識別カード - TD-1 及び TD-2 パート3) はファストトラック DIS の審議開始予定。
- ・ 電子データ記録時のロジカルレコードフォーマット(LRF)の検討。

### (3) 国内会議

- ・ 国内WG3 会議は課題の検討の為に、月1回のペースでおこなわれた。
- ・ ICAO の審議支援を行うために国際の WG3 の下に TF1 から 3 があるが、国内においても同様の TF に分け検討をおこなった。

### 4.2 今後の課題

- ・ 電子データ記録時のロジカルレコードフォーマット(LRF)の継続検討。
- ・ 最小セキュリティ要件の検討。

### 4.3 特記事項

- ・ 横浜会議では、ホスト国の役割をはたした。

### 4.4 平成13年度の国際会議の予定

平成13年6月	未定
平成13年10月	カナダ トロント市
平成14年3月	未定

## 5. SC17/WG4(端子付ICカード)

主査 松本 勉

### 5.1 活動概況

クレジットカードや電子マネーカード等金融取引用カード及び高セキュリティを要するアクセスカードとしての利用が一段と拡大し、提案 NP が3件あり2件のセキュリティに関する規格開発を進めることとなった。

(1) 次の投票案件について、投票を行った。

- ISO/IEC FDIS 7816-9 (追加コマンドとセキュリティアトリビュート) : FDIS 投票/賛成
- ISO/IEC CD 7816-3 AM1 (3v未満の電気特性) : CD 投票/反対
- ISO/IEC CD 10373-3.3 (ICカードのテスト方法) : FDIS 投票/コメント付賛成
- ISO/IEC FCD7816-1 (IC端子のカード面に対する高さ精度の改訂) : 反対

(2) 新テーマとして、次の事項が提案された。

a) IC カードへの個人認証バイオメトリックデータ利用（ドイツ提案）：

CD7816-11 投票／反対

b) IC カード用トークン暗号（RSA PKCS #15, スウェーデン提案）：

CD7816-15 投票／反対

c) PAS NP 20060 (Open terminal architecture specification) Europay 提案：DIS 投票／反対

## 6. SC17/WG5(カード発行者番号等)

WG5 主査 大坪 直彰

### 6.1 活動概況

(1) 国際会議は以下のとおり 2 回開催された。

2000 年 5 月 9 日～10 日 デンマーク（コペンハーゲン）

2000 年 10 月 23 日～24 日 日本（横浜）

(2) 国際会議の審議状況

- 当グループは金融取引カードのカード発行者番号(ISO/IEC 7812)、端子付 IC カードの登録アプリケーション提供者識別子(ISO/IEC 7816-5)の登録管理を行っている。
- ブロック付番のうち、付与後長期にわたって未使用の多いものについて、登録機関から文書を送付して未使用分の返還を求めている。WG ではこの状況をトラックするとともに、各国メンバーは当該国における文書送付先に対してこの動きをサポートしている（返還に応じるよう働きかけを行っている）。
- 最近、7812 の原則にかかわらず 2 つ目の IIN を取得したいとの申請が増えているが、この対応策として、登録機関の運用により既存の番号を数年のうちに返還することを条件に新番号を付与する取扱いを行う旨申合わせた。
- IIN、RID の取得の際に、付番運用の留意点を啓発するペーパーを検討している。
- 7812 シリーズ（カード発行者番号の付番および登録機関運用）の 5 年見直しを完了した。
- 7816-5（IC カードのアプリケーション識別子の付番および登録機関運用）の 5 年見直し CD 投票について、各国コメントとは別に、登録管理グループの運用面のコメントを検討した。
- コ・ブランディングカードへの IIN 付番のあり方について、今後検討することとし、まず各市場における現状の情報を持ち寄ることとした。
- 7816-5 登録機関の登録手数料値上げを了承した。

### 6.2 今後の主要課題

- 未消化の多い付番ブロックの回収継続
- AID 付番運用の留意点の啓発ペーパーの作成
- コ・ブランディングカードへの付番のあり方の検討

### 6.3 平成 13 年度国際会議開催予定

平成 13 年 5 月 15 日～16 日      フランス (パリ)  
平成 13 年 10 月                      カナダ

## 7. SC17/WG7(金融取引カード)

WG5 主査 大坪 直彰

### 7.1 活動概況

- (1) 国際会議は開催せず、電子メールベースにより審議を行った。
- (2) 国際会議の審議状況

7813 (金融取引カード) の見直しについて審議を行い、第 2 回 FDIS 起案を完了した。

### 7.2 今後の主要課題

SC17 横浜総会の決議により、WG7 は、第 2 回 FDIS 起案の完了をもって解散した。

これに伴い、SC17 国内委員会において国内審議を担当していた WGA (国内 WG5、WG7 案件を担当) は、WG5 に改称した。

## 8. SC17/WG8(コンタクトレスICカード)

主査 大谷 佳光

### 8.1 活動概況

- (1) 国際会議は、以下のように3回開催された。

平成12年7月10日から13日                      デンマーク    コペンハーゲン  
平成12年10月31日から12月2日                      日本    横浜  
平成13年2月27日から3月1日                      シンガポール

- (2) 国際会議の審議概況と主要成果

英語表記	略語	日本語表記	ISO/IEC 番号	審議組織	参考通信距離
Close-coupled	C I C C	密着型	10536	WG8/TF1	2 mm
Proximity	P I C C	近接型	14443	WG8/TF2	10 cm
Vicinity	V I C C	近傍型	15693	WG8/TF3	70 cm

#### (2)-1 密着型

- ・ ISO/IEC 10536-1 物理的特性(Physical characteristics) : 改訂 IS(2000.7)
- ・ ISO/IEC 10536-2 結合領域の寸法及び位置(Dimensions and location of coupling areas)  
: 改訂 IS(2000.5)
- ・ ISO/IEC 10536-3 電気信号及びリセット手順(Electronic signals and reset procedures)  
: IS (1996.12) 、2000 年には5年見直しにて継続維持決定。

- ・ ISO/IEC 10536-4 初期応答と伝送プロトコール(Answer to reset and transmission protocols)  
: 1995年時点より 2nd CD化の予定で留まっていた。廃止が決定。
- ・ ISO/IEC CD 10373-4 テスト方法 (Test method) : 廃止が決定。

#### (2)-2 近接型

- ・ ISO/IEC 14443-1 物理的特性 (Physical characteristics) : IS (2000.4)
- ・ ISO/IEC 14443-2 電波出力と信号インタフェース (RF power and signal interface)  
: FDIS 賛成投票、IS 化決定(2001.2)
- ・ ISO/IEC 14443-3 初期化と衝突防止 (Initialization and anticollision)  
: FDIS 賛成投票、IS 化決定(2001.2)
- ・ ISO/IEC 14443-4 伝送プロトコール (Transmission protocol)  
: FDIS 賛成投票、IS 化決定(2001.2)
- ・ ISO/IEC 10373-6 テスト方法 (Test method)  
: FCD 反対投票、コメント反映により FDIS 賛成投票

#### (2)-3 近傍型

- ・ ISO/IEC 15693-1 物理的特性 (Physical characteristics)  
: FDIS 賛成投票(2000.6.6)、IS (2000.7)
- ・ ISO/IEC 15693-2 電波インタフェースと初期化 (Air interface and initialisation) : IS (2000.5)
- ・ ISO/IEC 15693-3 衝突防止と通信プロトコール (Anticollision and transmission protocol)  
: FCD 賛成投票、FDIS 賛成投票 (2001.2 締め切り)
- ・ ISO/IEC 15693-4 拡張コマンドとセキュリティ特性 (Extended command set and security features) : 提案募集中
- ・ ISO/IEC 10373-7 テスト方法 (Test method)  
: FCD 反対投票、コメント反映により FDIS 賛成投票

(3) 国内WG8は課題の検討のために、1ヶ月に1回のペースで行われた。

### 8.2 今後の課題

- ・ ISO/IEC 14443-2 Amendment (Type C~G) の検討
- ・ ISO/IEC 14443-4 Amendmentの検討
- ・ ISO/IEC 15693-4 の検討

### 8.3 特記事項

- ・ 横浜会議では、ホストの役割を果たした

### 8.4 平成13年度の国際会議の予定

平成 13 年 8 月 北京  
平成 13 年 11 月 イスタンブール  
平成 14 年 2 月 (未定)

## 9. SC17/WG9 (光メモリーカード)

主査 齋藤 八郎

### 9.1 活動概況

#### (1) 国内委員会

- ・平成 12 年度は ISO/IEC11693、ISO/IEC11694-1、ISO/IEC11694-2、ISO/IEC11694-3、ISO/IEC11694-4 の定期見直し等のため、8 回の国内委員会を開催した。

#### (2) 国際会議は下記の 1 回開催され、日本から 5 名が参加した。

- 1) 日時 : 2000 年 9 月 13 日
- 2) 場所 : 英国 ロンドン
- 3) 参加人数 : 5 名 (国際コンビナー、セクレタリーを含む)

尚、当初の予定では SC17 全体会議に合わせて 10 月に横浜で開催する予定であったが、パリで開催される Cartes 2000 と重なるため、開催場所と開催日を上記の様に変更した。

#### (3) 国際規格の審議状況と主要成果

- 1) ISO/IEC 11693 の定期見直し。
  - ・ FDIS 投票で改訂が承認され、2000 年 5 月 15 日に国際規格として発行された。
- 2) ISO/IEC11694-1 の定期見直し。
  - ・ FDIS 投票で改訂が承認され、2000 年 5 月 15 日に国際規格として発行された。
- 3) ISO/IEC11694-2 の定期見直し。
  - ・ FDIS 投票で改訂が承認され、2000 年 5 月 15 日に国際規格として発行された。
- 4) ISO/IEC11694-3 の定期見直し。
  - ・ FDIS 投票で改訂が承認され、2001 年 1 月 15 日に国際規格として発行された。
- 5) ISO/IEC 11694-4 : 定期見直し
  - ・ 9 月の WG9 国際会議で見直し最終案の検討を行い、FCD 投票にかける事が承認され、2001 年 3 月 2 日締め切りで FCD 投票を実施。
- 6) WG3 用 Logical Recode Format
  - ・ 国際 WG3 より光カードをパスポートとして使用する際の Logical Recode Format (L R F) について WG9 の案を提出するよう要請された。この LRF に関しては既に日本国内規格として規格化 (JIS X 6332 光メモリーカード—直線記録方式—情報交換用データ様式) されているので、これを WG3 に提出する事を国際 WG9 に諮った結果、承認されので JIS X6332 (英語版) を国際 WG3 に提出した。

#### (4) JIS X 6330 規格改訂への協力

- ・国際規格の5年定期見直しに伴い、JIS規格も改訂する必要があるため、WG9メンバーが協力して改訂作業を実施中。本年度で作業は完了する予定。

#### 9.2 今後の主要課題

- a) 引き続き下記規格の定期見直し処理を行う予定
  - ・ISO/IEC 11694-4：定期見直しFCD投票結果処理とFDISへ向けての作業。
- b) ISO/IEC 10373-5 Test MethodのJIS化に対する協力。

#### 9.3 2001年度国際会議予定

##### 1) 2000年10月9/10日                      カナダ    (オタワ)

- ・今年度の国際会議は、ISO/IEC 11694-4の見直し作業だけが主な作業となるので、SC17総会に合わせて1回とする。
- ・但し、他のテーマや緊急の提案があれば、中間の5月か6月に開催することも有り得る。

### 10. SC17/WG10 運転免許証)

主査 牧野 忠由

表記 ISO/IEC JTC1 SC17/WG10 (以降 SC17/WG10) 委員会では運転免許証及び関連する資料に関する国際標準化活動を行っている。

しかし、運転免許証の運用に関しては、各国担当官庁が行うもので、警察庁の管理下で行われている。

従って、SC17/WG10は、この運用上の内容に関する標準化は行わず、運転免許証製作上の技術的項目に関して国際標準化を行い、関連官庁へ提示することを目的としている。

#### 10.1 活動概況

##### (1) SC17/WG10 設立までの経過

1996年10月にソウルで行われた第9回 JTC1/SC17 プレナリー会議で米国代表より運転免許証の国際標準化に関する提案が行われた。この経過を受けて SC17 プレナリー会議での審議の結果、1998年11月NWP投票が JTC1/SC17 国際事務局より行われ、15カ国が賛成を行い、SC17/WG10 設立が正式に承認された。

わが国では、SC17/WG10 国内委員会を(社)新交通管理システム協会(UTMS)<sup>1</sup>に設置し、UTMS及びSC17国内委員会事務局である(社)日本事務機械工業会に対し、WG10参加委員の公募を行い、電機関連、印刷関連及び監督官庁三分野18組織の審議体制がまとまった。

第1回国内委員会、国際委員会は共に99年5月開催され、以降99年度には、国内分科会が7回、国際会議が2回開催され、各国免許証の状況、SC17/WG10としての活動範囲を定めるスコープに関して

の論議を中心に審議が行われてきた。

## (2) 2000 年度活動状況

### a) 会議開催状況

SC17/WG10 国内分科会は 2000 年 5 月の第 8 回会議から、現在までに 6 回の国内会議を開催し、審議を進めてきた。

また国際会議は、以下 4 回開催されている。

第 3 回 SC17/WG10 国際会議 2000 年 3 月 ロンドン市 (イギリス)

第 4 回 SC17/WG10 国際会議 2000 年 6 月 ミュンヘン (ドイツ)

第 5 回 SC17/WG10 国際会議 2000 年 10 月 新横浜 (日本)

第 6 回 SC17/WG10 国際会議 2001 年 2 月 ハボロネ (南アフリカ)

### b) 主な審議項目の状況

#### 1) 標準化の進め方に関して

WG10 に期待する各国の考え方は、相互運用に資する具現化技術の規格策定ということでは、スコープなどの審議から同意を得ているが、規格の分野に関しては、今までの各国各様な運転免許証行政の考え方が反映されて微妙な再がある。この差異は規格検討の優先順位の論議に現れており、運転免許証の印刷面での何らかの互換性をとる方法論に注目する意見、あるいは国際運転許可証の標準化をまず第一とする考え方、各国各様の国内運転免許証はそのままとして、運転免許証に何らかの方法で電子データを持たせ国際相互運用に用いる考え方などが論議されている。

#### 2) 記述項目に関して

運転免許証の相互互換をはかるには、まず最低限必要な記述項目の検討が必要になる。

各国が各国の運転免許証に記述している項目の調査結果をもとに、最低限必要な項目の抽出を各国の運転免許証運用機関の助言を得ながら策定中であり、氏名、運転可能車種、運転条件など 13 項目前後の項目案がまとまりつつある。

##### － 電子的記述方法に関して

SC17 としてはデータの記述方法として TLV 方式を過去に標準として規格化してきている。(ISO/IEC 7816 part 6)

しかしカードへのデータ記述方法としてはビットマップ方式が、またその他の方法として HTML、XML 方法などが考えられ、論議を行っている状況にある。

##### － 表現方法に関して

国際相互運用を行う上で最小限必要な記述項目の中に、運転可能車種、運転条件が案として選択されている。

たとえば運転可能車種に関して各国の状況を見ると、多種多様な区別を行っており、その全てを記述する事は仮に電子的に記述するとしても、カードという条件を考えたとき容易なことではない。この状況は運転条件に関しても同じであり、例えば眼鏡を例としても、国によっては夜間のみ着用などの条件もある。

このため、各国の運用状況のアンケート調査を元に、運転可能車種であれば、排気量であるとか大

きさなど共通項目で分類を行い、各項目毎に各国要件をとりまとめ、英数字で表す案を日本から提案している状況にある。

## 10.2 今後の検討方針

### (1) 国際会議の方針

国際会議議長である John Rodakis 氏は、00 年 11 月報告された、SC17 ビジネスプラン<sup>(1)</sup>の中で、WG10 が策定するドラフト案として以下 3 項目を上げて、審議を行う方針を示している。

注(1) : ISO/IEC JTC1/SC17 Business Plan for Period November 2000 to October 2001  
(N1831 2000-11-01)

- ISO/IEC 18013-1 Identification cards-Motor vehicle drivers licences  
part-1 Model data element
- ISO/IEC 18013-2 Identification cards-Motor vehicle drivers licences  
part-2 Data element mapping of technologies
- ISO/IEC 18013-3 Identification cards-Motor vehicle drivers licences  
part-3 Biometrics and encryption

### (2) 我国としての方針

日本としての基本的スタンスは、現在運用されている運転免許証に関する各種国内法規に反することなく国際標準が規格化される方向で、かつ国際的な運用に資する方向の模索を行い、提案を行っていくこととしている。

この観点から、各国各様の運転免許証がそのまま流用できる方法として、電子データを持って国際相互互換を行う方法の有効性を論議し、かつ電子データでの具現化に関する技術ドラフトに関して日本から原案の提示を行う用意があることを報告している。

### (3) 今後の国際会議予定

2000 年 6 月 米国 ワシントン D. C.

2001 年 10 月 カナダ オタワ

## 10.3 今後の主要課題

WG を横断するバイオメトリックスデータ利用の標準化プロジェクト体制 (OWG2) への対応等がある。

## 11. SC17/OWGs

WG9 国際コンビナー 吉岡 隆雄

### 11.1 活動概況

(1) OWG 関係会議が、下記のように開催された。

①バイオメトリックス関係

- ・ワークショップ：2000年9月11日 英国 ロンドン  
日本からの出席者：ナショナル・ボディ（寄本、牧野）  
WG9（斎藤、吉岡）
- ・小グループ会議：2001年3月9日 米国 ボストン  
日本からの出席者：WG9（吉岡）

②CO-EXISTENT TECHNOLOGIES 関係

- ・SC17プレナリー：2000年10月25～27日 日本国 横浜  
日本からの出席者：省略

(2) 審議状況と主要成果

1) バイオメトリックス

①ロンドンでのワークショップ (N1789, N1780, N1872)

SC17においてバイオメトリックスの標準化について、どう取扱うべきか議論し、以下の結論を得た。

- ・SC17として、次の4点を考慮し、さらに研究する。
  - a) グローバルなインターオペラビリティを持つ Automated Personal Identification Confirmation（自動個人認識）。
  - b) 各種団体が研究しているバイオメトリックス技術のISOへの移行。
  - c) バイオメトリックス関係データを保持するためのデータ構造。
  - d) SC17関係標準とのインターフェース。

・次のステップ

ワークショップでの方向性をSC17横浜会議で提案する。その場で、その方向性が了承されたなら、小グループ会議を持ち、その会議でニュー・ワーク・アイテムとして提案するよう検討する。

②ボストン小グループ会議

SC17横浜プレナリー会議のレゾリューションに基づき、次回OWG2会議への提言案を纏めるために開催され、以下の結論を得た。

- ・IDカードのバイオメトリックス認識についてのインター・オペラビリティを可能とする標準化コンポーネントについては、各WGに存在するため、SC17内に、ニュー・ワーク・アイテムあるいはニューWGを創設することはしない。
- ・現時点そのコンポーネントが未整備の場合、12ヶ月以内には整備可能と思われる。
- ・この小グループの方向性は、SC17外でバイオメトリックスの標準があるか否か、またあったとしても、その内容がアプリケーション側にとって、十分か否かの吟味が必要である。
- ・現在時点7816-11が、他WGの標準に満足しているか否かは不明。
- ・この10月のプレナリーで、バイオメトリックスについての各WGの進捗をレビューする

するよう提案する。

## 2) CO-EXISTENT TECHNOLOGIES (N1830)

CO-EXISTENT TECHNOLOGIES の扱いについて、S C 1 7 横浜会議での結果、以下の結論となった。

- ・各国委員会は90日以内に「The proposal contained in Plenary Paper N1806 including the changes proposed by WG1」についてのコメントをS C 1 7 事務局に提出する。
- ・S C 1 7 は、そのコメントに基づき、OWG 1 会議を招集する。

## 11.2 平成13年度国際会議予定

### (1) OWG 2 会議 (バイオメトリックス)

2000年4月19日～20日 英国 ロンドン

### (2) OWG 1 会議 (CO-EXISTENT TECHNOLOGIES)

未定。

## 12. SC28(事務機械)

委員長 山田尚勇

### 12.1 活動概況

(1) 本年度に開催された国際会議は、2000年6月にベルリンのDINで開催されたプレナリーのみであった。日本からは11名(オブザーバ1名を含む)が参加した。

(2) ベルリン会議では、ドイツから提案の予定されていた2件のドイツ標準(DIN: Colour Image Evaluation, Cartridge Yield)をめぐり、白熱した議論が展開された。この提案は、デジタルカラー画像と環境関連課題であり、SC28の最近の傾向を象徴するものである。

ベルリン会議で議論された主な議題

#### ① 画質測定関連

IS13660 Addendum の「Calibration Test Chart」および「Measurement of Image Quality Attributes for Hardcopy Output - Large Area Color Images」のNWI提案

米国提案の数件についてのNWIなど

#### ② ドイツ提案のカラー規格関連

Fast Track 提案でDIS投票中のISO/IEC DIS 19839-1,2,3 and 4についての議論

日本提案の「アジア版カラーテストチャート」のNWI提案

#### ③ トナーカートリッジ寿命

米国提案のNWI提案

カラー電子写真、その他の技術（インクジェットなど）は Study Item

④ リサイクル・リユース関連

米国提案と日本提案を統合し NWI 提案

⑤ その他の NWI 提案

オフィス用 LCD プロジェクタの仕様書様式と関連測定方法の NWI 提案(日本提案)

"Print Quality Attributes for Machine Readable Digital Postage Marks"の NWI 再提案

⑥ SC28 の WG 作成、継続審議

⑦ FastTrack 問題についての各国合意「各国で SC28 のスコープに含まれる分野の国内規格が審議されている状況をお互いに連絡し合い、必要ならば他国の意見を自国の標準作成過程に反映させることを可能にする」

⑧ コミュニケータ制度の継続

(3) 本年度の主な成果

① Pメンバーの増加

数年来課題となっていたPメンバーについては、ベルリン会議でオランダの参加、スイスの復帰などの動きがあった。その後中国やタイもPメンバーに参加することになり、合計 11カ国となった。コミュニケータ制度の成果であり、我が国としてはさらに韓国などアジア諸国を中心に参加呼びかけを継続する。

② NP 投票の結果

NWI として成立したもの

- Print Quality Attributes for Machine Readable Digital Postage Marks
- ISO/IEC 13660 Addendum Calibration Test Chart
- Image quality standards for Printer Systems
- Quality and Performance of Office Equipment that may contain reused components
- Method for the determination of toner cartridge yield for monochromatic electrophotographic printers and multi-function devices that may contain printer components
- ISO/IEC 13660 Addendum Banding
- ISO/IEC 13660 Addendum Measurement of Image Quality Attributes for Hardcopy Output – Large Area Color Images

成立しなかったもの

- Method for Optimizing Image Reproduction
- Minimum information to be specified for Image Scanners - Part 2
  - Specification of reproduction properties and variations producing a 16-step equally spaced gray scales

なお、日本が反対した 3 件はすべて不成立となった。

### ③ ISO/IEC DIS 19839-1,2,3 and 4 の Fast track 投票の不成立

ドイツから Fast track 投票が行われた Colour Image Evaluation の規格について、技術的な面、著作権などの制度的な面、既存の標準との重複などについて日本、米国を中心に不備を指摘し、各国の National Body に働きかけを行い、Fast track の成立を防ぐことが出来た。

## 12.2 今後の主要課題

- ① 日本提案の「アジア版カラーテストチャート」「オフィス用 LCD プロジェクタの仕様書様式と関連測定方法」の NWI 提案
- ② 新テーマの発掘と提案(継続)
- ③ P メンバーへの参加勧誘(継続)
- ④ 制定された国際規格の JBMS/JIS 化の推進 (支援)

ECMA TC34(OA 機器)の活動が始まり、トナーカートリッジのイールドやプリンタスループット測定方法などの検討を始めている。JTC1 との関係で今後複雑な動きが予想されるが、その中で日本としては従来にも増して、アジア地域への貢献と協力を進める必要がある。

## 13. SC28/WG2 プリンタ

主査: 竹信秀俊

### 13.1 活動概況

プリンタ関連の作業は、95 年度で一通り完了しているため、本年度も活動を行っていない。

### 13.2 今後の主要課題

ECMA からの情報によると、ISO/IEC10561 (プリンタスループットの測定方法) のページプリンタ用 (for Class 3 & 4 Printers) のたたき台を USA が作成中で、2001 年春頃には ECMA メンバーを含めて具体的内容検討を始めるらしい。その際、日本もこの活動に参画する必要があると思われる。

## 14. SC28/WG3(複写機)

主査 伊藤 丘

### 14.1 活動概況

独が FAST TRACK 制度を利用して成立させた ISO/IEC 15775 を拡大発展させる形で、プリンター、スキャナ、ディスプレイを対象としたカラーチャートと評価標準規格 ISO/IEC 19839 が Fast Track 手続きにより DIS 投票を行うこととなった。

この規格案に対しては、基本的には WG 6 が担当することになっていることから、WG 3 としては、それを支援する形で、これまでの ISO/IEC 15775 検討の中で改善を進めたきた 15775 用 ASIAN チャートを 2000 年 6 月 5 日～6 月 9 日開催の plenary 国際会議で提示し、現状のチャートの問題点を指摘すると共に、最悪のケース（万一 19839 が成立してしまった場合でも、日本としてはこのチャートを利用する）に備え、また一方では既存の 15775 用チャート改善案として国際的に認知させる方向で対応した。

結果としては、国際会議後に行われた DIS 投票にて、19839 に対しては否決された。

## 14.2 今後の主要課題

独はその後 19839 の復活を図る方向で画策しているやに聞くが、WG3 としての今後の対応は 15775 用カラーテストチャート改善提案の一本に絞る方向で進めることとしている。

今後の予定としては、以下を予定している。

- ①2001/4 までに印刷仕様を整理決定する
- ②次回の Plenary 会議までに、15775 用 ASIAN チャートの印刷を済ませる
- ③各国代表が集まる Plenary 会議にて、15775 用のカラーテストチャートとして正式に認めて頂く
- ④また、次回の 15775 規格の見直し時期に合わせて、規格本文の修正も必要なため、各国との事前根回し作業を進める

## 14.3 国際会議参加予定

2001 年 5 月 Plenary Meeting (米 Connecticut) 2 名

## 15. SC28/WG4 (画質評価)

主査 稲垣敏彦

### 15.1 活動概況

#### (1) ハードコピーの画質属性測定規格 (ISO 13660) への較正方法の追加

ISO 13660 は、面画像の画質属性に対する較正方法の追加が課題として残されていて、第 10 回総会で日本が Project Editor を引受け、再度 NP 提案をすることが承認されたことから、面画像を含む画質属性較正用チャートの試作品を作成し、第 11 回総会で較正チャートの試作結果と測定結果を報告し、試作チャートを配布した。第 11 回総会で「ISO 13660 Addendum Calibration Test Chart」を NP 提案として提案することが承認され、NP 投票で 5 ヶ国(独、オランダ、米、ブラジル、日)の参

加が得られ、承認された。

第 11 回総会に先立ち、2 年前に完成した ISO 13660 が発行されていない理由を米国 SC28 に確認した結果、出版用に準備された電子ファイルが開けられないまま放置されていたことが判明し、米国がエディタとして ISO 中央事務局と直接接し、早急に電子ファイルを完成させることになり、修正すべき箇所のインプットを行った。

また、ISO 13660 の JIS 原案作成委員会に参加し、WG4 の委員を中心に JIS 原案を作成した。

## (2) カラーハードコピーの画質属性測定規格 (ISO 13660 Part2) の提案

ISO 13660 の次のステップとして、第 10 回総会に、カラーのソリッド及びハーフトーン画像の画質属性測定方法を WG4 より提案し、「Measurement of Image Quality Attributes for Hardcopy Output - Large Area Color Images」を NP 提案することが承認されたが、5 カ国ルールの問題があり NP 提案が遅れていた。第 11 回総会では、米国から日本が担当の ISO13660 のカラーへの拡張に関して、米国の提案「Image quality standards for printer systems」を含めて一体化して再検討の提案があったが、日本の反対で両者を並行して進めることになり、本年の NP 投票で 5 ヶ国(独、オランダ、米、ブラジル、日)の参加が得られ、承認された。

## (3) 画質測定関連規格

第 11 回総会にて次の 2 点が USA より再提案された。

### 1) ISO13660 へのバンディング測定方法の追加

プリンターまたは複写機のハードコピー出力に共通する画像品質欠陥である帯状濃度ムラの定義およびその欠陥の物理的測定方法を規定するものに限定して再提案され、第 11 回総会で NP 提案することが承認され、NP 投票で 6 ヶ国の参加が得られ、承認された。IS ではなく、Technical Report として発行される可能性もある。

### 2) Image quality standards for printer systems

プリンタシステムで出力される画像の品質を視知覚要因で評価する方法を規定するもので、第 11 回総会で NP 提案することが承認され、NP 投票で 5 ヶ国の参加が得られ、承認された。投票時に、標題が広すぎるので内容に合った標題に変更すべきことと、"visual assessment" を加えて内容を表すものとするべきであるとのコメントを提出した。

## 15.2 今後の主要課題

### (1) ISO 13660 への較正方法の追加

ISO 13660 の JIS 原案作成で、ISO 13660 に準拠した測定法が普及すると考えられることから、較正用チャートをベースとした較正の目標値を設定し、次回総会での提案を目指す予定である。

ISO 13660 規格に準拠した測定機器の開発が進められていて、較正方法の確立後には、較正用チャートの供給体制の検討が必要となる。

(2) カラーハードコピーの画質属性測定規格 (ISO 13660 Part2)

カラー用較正チャートを作成し、提案した規格の目標値設定を行う必要がある。

(3) 画質測定関連規格

米国の提案内容が明らかになった時点から検討を開始する。

## 16. SC28/WG5(リサイクリング)

主査 小渋弘明

### 16.1 活動概況

(1) 国際会議 (SC28 総会)

- ・ 2000年6月5日～6月9日
- ・ ベルリン (ドイツ) 参加：小渋主査
- ・ 審議概況と主要成果

本会議において、本テーマに対する3つの決定があった。

\*Resolution15/2000:SC28 は再使用部品を使用している事務機器の品質と性能に関する新規格化提案を指示。エディターはJ. Baronas (米)。

\*Resolution22/2000:SC28 は品質と性能スタディーグループに対し、日本からの2つの提案を考慮に入れる事を指示。日本提案はSC28/N402とSC28/N403。

\*Resolution23/2000:品質と性能スタディーグループは「再使用部品を使用している事務機器の品質と性能」を2000年8月1日までにレビューする。

以上のように日本提案が今後出されるNPの考慮対象となったことは、大きな成果である。

(2) 国内活動状況

- ・ 国内WG5は、ほぼ1ヶ月/1回のペースで開催された。
- ・ 国際会議の結果を受け、スタディーグループよりNew Work Itemとして提案され活動を始めることに対する投票が行われた。国内委員会としては賛成の立場をとり、投票を行っている。
- ・ 国際会議へ提案した「Schematic Diagram of Product Life Cycle (用語体系図)」についてはスタディーグループとの情報交換を行い、今後提案されるNPの中ではJBMS化することを前提として、Informative Annexとして引用してもらうことを提案した。
- ・ 「Schematic Diagram of Product Life Cycle (用語体系図)」についてはJBMS化のため内容の精査を行い、使用する用語の修正を行った。日本語タイトルも英文に合わせ「リサイクル関連用語体系」に変更した。

### 16.2 今後の課題

- ① 用語体系図の完成とJBMS化

## ②NW I への対応

### 17. SC28/WG6(カラーマネージメント)

主査 村井和夫

#### 17.1 活動概況

ISO/IEC 15775 をもとに DIN から、プリンター、スキャナ、ディスプレイに共通して使えるカラーチャートと評価標準が ISO/IEC 19839 として Fast Track 手続きにより DIS 投票にかけられた。

これに対して、日本の意見を反映することを目的として WG 6 を新たに創立し、2000 年年頭より活動を開始した。WG3 での検討内容と、作成した 15775 用 ASIAN チャートをもとに評価を行い、WG6 として本標準化は以下の理由で反対の立場をとることとした。

- ・書誌的事項を含む標準記述上の問題があり標準として完成されていない
- ・現状のテストチャートを用いた評価で、まだ問題点が多数ある
- ・プリンタ評価時、アナログテストチャートが印刷物で提供されているが、印刷以外の各種プリント方式に対し印刷されたチャートとの比較では評価が適正に行えない
- ・スキャナ評価時、出力デジタルデータで比較するとあるが、比較結果を得るには多くのスキャナではアプリケーション込みの評価になる
- ・スキャナ評価時、出力デジタルデータをプリンタ出力して比較するとあるが、比較結果がスキャナによるものかプリンタによるものか分離できない
- ・モニタ評価用透過式テストチャートが未完成であるばかりでなく、このような評価法自体に疑問があり、またこのような評価法は業界としてのコンセンサスを得られない

2000年6月の Plenary Meeting で反対を表明し、日本としての反対投票の準備をするとともに、投票権のある国に積極的に働きかけを行い、最終的に廃案とすることができた。

#### 17.2 今後の主要課題

昨年は上記標準への対応で明け暮れた。この分野での日本としての標準化提案をどのように推進するかを検討を進めていく。

### 18. SC28/WG7 消耗品

主査: 竹信秀俊

#### 18.1 活動概況

1999年12月にドイツ(DIN)から「Determination of the yield of consumables (toner/ink, black) for

copiers, printers, fax equipment and their combinations.」〔複写機、プリンタ、ファック、複合機の消耗品(黒トナー/インク)の寿命(使用可能枚数)決定方法〕が提案され、これを検討する為に2000年4月にワーキンググループ(WG7)が新規発足した。

ドイツ提案は、モノクロ(黒色)に限定してはいるものの、インクジェット式及び電子写真式のデジタルとアナログのあらゆる機器の消耗品を対象としている為、煩雑かつ無理のある内容になっていた。その上、テストチャート(パターン)には、テスト結果の安定性を妨げる要因となる16階調グレースケールを用いていることや、非効率な間欠テストモードや濃度測定を強いている為「テーマとしては賛成するが、規格の基本的考え方についてはドイツ案を支持できない」旨の正式寄稿を5月末に行った。

その直後に、USAからドイツ案の対抗案が正式寄稿され、WG7で検討した結果「いくつかの問題はあるものの、日本メーカーが望んでいるコンセプトに近い為、USA案を支持して、国際レベルのWGを結成後、詳細内容についての意見交換/原稿の修正を行っていくのが得策であろう」とのコンセンサスを得て、6月にドイツ(ベルリン)で開催されたSC28 Plenary meetingに臨んだ。

#### <SC28 Plenary meeting 決定事項>

- ① ドイツ提案書は廃案となった。
- ② USA (hp社)のMr. Paul JeranをProject editorとした国際レベルのStudy groupを結成することが決定された。
- ③ まず手始めに、白黒電子写真プリンタのトナーカートリッジに焦点を絞った規格作成作業を始めることを合意し、USAのNWI提案書を基に修正を加えて投票用の最終提案書を作成した。タイトルは以下の通り。

#### *Method for determination of toner cartridge yield for monochromatic printers and multifunction devices that may contain printer component*

- ④ WGでは、電子写真プリンタ以外の機器(複写機、インクジェットプリンタ、FAX、MFPなど)のYield Test規格化やトナー消耗品のYield Testに関する規格化についても視野に入れて検討する。なお、これらの規格については、基本的には③で規格化する内容と同じ方法あるいは類似した考え方で規格化することを前提とする。
- ⑤ 今後は、WGメンバー間でe-mail交換やface-to-face Mtg.を繰り返し、下記日程で作業を進める。
  - ・ 2000年12月頃…NWI投票
  - ・ 2001年02月頃…最初のドラフト(コミットドラフト)提出
  - ・ 2001年10月…ファイナルドラフトを投票に提出
  - ・ 2002年夏頃…正式規格として発行

7月以降USA案の詳細検討を行い、10月に「USA案に対する日本コメントと修正案」を正式寄稿した。その後、日本提案を一部盛り込んだUSAの改良案が非公式に配布され、これについてもWG7で内容を検討して、2001年1月に「USA改良案に対する日本コメントと修正案」を非公式に配布した。

## 18. 2 今後の主要課題

前述した日程計画どおりに、白黒電子写真プリンタのトナーカートリッジに焦点を絞った規格作成作業を進める傍ら、インジェット方式用の規格案やカー製品用の規格案の検討も徐々に進めていく必要がある。

### 18. 3 国際会議参加

2000年6月 Plenary Meeting (独 Berlin) 1名

2001年5月 Plenary Meeting (米 Connecticut) 未定

## 19. 第74委員会(情報処理機器の安全)

委員長 田中 喜一

### 19.1 活動概況

本年度は、国際規格対応としては、IEC60950のAmendment No. 1のCDVに対する審議を、国内の国際整合対応としては、IEC60950第2版のJIS化フォロー、及びIEC60950第3版に対応した電気用品取締法（現在、「電気用品安全法」）技術基準原案の審議を中心に行った。それぞれの技術的審議内容の概要は次の通り。

#### (1) 国際規格対応について

IEC/TC74関連IEC文書を中心に審議した。主な審議事項は、次の通り。

##### 1) IEC60950「IT機器の安全」第3版改訂案(74/578/CDV)の審議

この改定案の主要点は、

- (a) 直流電源の定義追加
- (b) 燃焼性試験法としてIEC60695規格などを参照
- (c) ケーブル配信システムに対する要求追加
- (d) 通常動作電圧を明確化
- (e) 温度依存性のある機器への規定追加
- (f) 紫外線からの保護規定追加
- (g) LEDに対する表示や最終製品での試験免除など要求を一部変更
- (h) 3層絶縁電線の適用範囲拡大

(h)は、WG6で、日本が中心となり、纏め上げた提案である。修正案は、全体としては、妥当なもので、賛成投票を行ったが、次の2点についてコメントを提出した。また、(ii)については、WG8会議においても修正提案を行った。

- (i) CD段階でAnnex Gに於いて、100V機器に対し絶縁距離が短くなりすぎないように変更提案していたが認められなかったため、日本のデビエーションとすることにした。

In some country noteとして、日本のデビエーションの明記を求めた。

- (ii) CRTの規格が、IEC61965として、2000年9月に発行されているので、同規格に合致しているCRTも使用できるようにする。

##### 2) IEC 62018「エネルギー管理要求」(案)(74/554/CD)の審議

用語の意味や試験雰囲気温度に関し意見がでたが、エネルギースターとの整合性等を調査の結果、原案通り賛成と回答した。9月のWG9会議でCDに対する各国コメントをレビューし、11月末にCDVにする予定であったがCDVの発行が遅れている。

3) IEC 60950, Ed. 3- Part 21「リモートパワーフィーディング」の審議

日本では、使用されていないシステムに対する要求であり、特にコメント無く、賛成と回答した。

4) IEC62102「ICTのネットワークへ接続される機器のインターフェース分類」(案) (74/568/CDV)の審議

特にコメント無く、賛成投票を行った。

(2) 国内規格対応について

1) IEC60950 第2版 JIS 化のフォロー

本規格に、電話機やファクシミリ等の電気通信網に接続される機器への要求が含まれており、郵政省から電気通信網への要求と誤解を招く恐れがあるとして、表現の変更の申し入れがあった。第2版のJISができない限り、第3版以降のJIS化は難しいとの判断から、技術的要求内容自体の変更を伴わない範囲で、表現の変更を行い、その後のフォローを経済産業省にお願いした。

2) IEC60950 第3版 J I S 化について

日本規格協会の平成13年度JIS原案作成公募に応募し、平成13年度の活動として、IEC60950 第3版のJIS化を実施する事とした。

3) IEC60990 の JIS 化について

IEC60950 第2版のJIS化が進展しなかったため、活動を開始しなかった。

4) IEC-J 規格審議

技術基準検討委員会情報機器小委員会でまとめられた、IEC60950 第3版のJ規格の原案を第74委員会としても審議し、下記を決定した。

(a) 絶縁距離が極端に小さな値とならないよう、Annex Gの表G.1に対し、「日本では、公称交流主電源電圧100Vの機器に対する主電源過渡電圧は、表G.1の公称交流主電源電圧が150Vの行により決定する。」との注を追加する。

(b) 温度上昇限度値の表16に対する現行のデビエーションを「なお、その1については、電気用品の技術基準を定める省令〔昭和37年通商産業省令第85号〕別表代四1(1)口の細則3を適用することができる」と変更する。

(c) CRT 単体の安全規格 IEC61965 も使用できるようにする。

## 19.2 今後の主要課題

### (1) マルチメディア機器の安全性

IEC60950 の対象製品の機能と IEC60065 の対象製品の機能を併わせ持つような製品、いわゆるマルチメディア機器に適用すべき規格作成のため IEC 内で新 TC の設立が決定している。この動きに対応するため、国内でも、第 74 委員会の代表及び第 92 委員会の代表からなる JWG を設置し、対応しようとしているが、早急に日本としての審議体制をどうするかの方角性を出し、新 TC の審議に積極的に参加する必要がある。また、これらの機器に広く適用できる HBS 規格 (Hazard-Based Standard)、ECMA-287 の第 2 版の規格作成作業が 2001 年末には完了し、IEC の新 TC に引き継がれる予定であるため、この規格作成作業にも注意を払う必要がある。

### (2) IEC 規格の JIS 化

IEC60950 第 2 版 JIS 原案「JIS C 0950」が制定され次第、IEC60950 第 3 版の JIS 原案を作成する。また、現在 CDV の段階である IEC60950 第 3 版の修正 1 版の JIS 原案についても考慮する。

IEC/TC74 が取り扱っているその他の規格 (後述の「関連国際規格の現状と今後の見通し」の表参照) についても、その JIS 化をどのような体系で行うかを明確にした上で、必要なものについては、JIS 化を推進して行く必要がある。

### (3) 日本からの修正提案について

19.2 (1) 及び (2) について、日本提案が認められるよう積極的に対応する必要がある。

### (4) 機器の消費電力規制

IEC 62018「エネルギー管理要求」(案) (74/554/CD) で新たに機器の消費電力を規制する規格の作成を求められており、次回の WG 9 で NP となる文書を作成する予定。

## 19.3 特記事項

(1) 委員長交代 (2000.6.30) : 鈴木俊雄 委員長 / JET → 田中喜一 委員長 / JET

(2) WG8 委員交代 (2000.6.30) : 田中喜一 / JET → 住谷淳吉 / JET

(3) 顧問退任 (2000.12.11) : 柿本顧問

関連国際規格の現状と今後の見通し

規格番号	規格の名称	現状	今後の計画(見通し)			
			WD CD	CDV	FDIS	I S
IEC60950 第3版	情報技術機器の安全性	IS(1999.04)				
IEC60950 修正1版	情報技術機器の安全性	74/578/CDV			2001.03	2001.10
IEC60950 Part 21	リモートパワーフィーディング	74/566/NP				
IEC60950 Part 22	屋外設置機器	74/585/NP	未定	未定	未定	未定
IEC60950 Part 2Y	統合ロボティクスを有する大型IT機器	74/584/NP	未定	未定	未定	未定
IEC60990 第2版	タッチカレント測定法	IS(1999.08)				
IEC62018 第1版	エネルギーマネージメント要求事項	74/554/CD	2000.04	未定	未定	未定
IEC62151 第1版	電気通信網に接続される電気機器の安全性	IS(2000.05)				
IEC62102	インターフェイスの分類	74/568/CDV				TR発行 2001.3

平成12年度 国際会議出席者リスト

会議名	開催日	開催場所	出席者名(敬称略)
WG 6	2000.05.25 - 26	スペイン パルマ	佐藤(富士通電装)、森(古河電工)
	2000.11.8 - 10	ドイツ シュツットガルト	佐藤(富士通電装)、森(古河電工)
WG 7	2000.6.27 - 28	スウェーデン スtockホルム	中村(沖電気)、漆島(松下通信)
	2000.11.6 - 8	ドイツ シュツットガルト	漆島(松下通信)
WG 8	2000.05.22 - 25	スペイン パルマ	近藤(JQA)、田中(JET)
	2000.9.18 - 20	アイルランド リマリック	近藤(JQA)
WG 9	2000.9.21	アイルランド リマリック	近藤(JQA)

平成13年度 国際会議出席予定者リスト

会議名	開催	開催場所	出席者名(敬称略)
TC74 プレナー	2001.10.15 - 17	イタリア フローレンス	未定
WG 6	2001.5.28 - 30	フィンランド ヘルシンキ	佐藤(富士通電装)、森(古河電工)
	2001.10.24-26	イタリア フローレンス	佐藤(富士通電装)、森(古河電工)
WG 7	2001.4.18 - 20	アメリカ ラスベガス	漆島(松下通信)、中村(ケミトックス)
	2001.10.17 - 19	イタリア フローレンス	漆島(松下通信)、中村(ケミトックス)
WG 8	2001.5.30-6.1	フィンランド ヘルシンキ	住谷(JET)、近藤(JQA)
	2001.10.22 - 24	イタリア フローレンス	住谷(JET)、近藤(JQA)
WG 9	2001. 06~07 頃	ドイツ フランクフルト	佐藤(リコー)

(参考 1)

平成12年度 国際規格回答原案等リスト

2000.5.26	74/578/CDV : Draft amendment 1 to IEC60950, Ed. 3: Safety of information technology equipment
	IEC 60950 第3版の改訂 1: IT 機器の安全
2001.1.12	74/584/NP : Proposal of the Secretariat: IEC 60950-1, Ed. 4, 2001: Safety of information technology equipment - Part 2Y: Large IT equipment with integral robotics
	IEC 60950 Part 2Y : 統合ロボティクスを有する大型IT 機器
2001.1.12	74/585/NP : Proposal of the Secretariat: IEC 60950-1, Ed. 4, 2001: Safety of information technology equipment - Part 22: Equipment installed outdoors
	IEC 60950 Part22: 屋外設置機器

(参考 1)

平成 12 年度 国際規格回答原案等リスト

No.	発信年月日	件 名
1	2000.4.24	FCD 10373-3.3 : ID cards – Test methods : Part 3–IC cards with contacts
		ID カードの試験方法—パート 3 : 端子付 IC カード
2	2000.4.24	FDIS 7816-9 : IC cards with contacts – Additional interindustry commands and security attributes
		端子付 IC カードの 追加コマンドとセキュリティアトリビュート
3	2000.5.29	FDIS 15693-1 : Contactless IC cards - Vicinity cards : Part 3 - Physical characteristics
		近傍型コンタクトレス IC カード の物理特性
4	2000.6.26	FCD 10373-6 : ID cards – Test methods : Part 6 –Proximity cards
		ID カードの試験方法—パート 6 : 近接型コンタクトレス IC カード
5	2000.6.26	FCD 10373-7 : ID cards – Test methods : Part 7 –Vicinity cards
		ID カードの試験方法—パート 7 : 近傍型コンタクトレス IC カード
6	2000.6.26	FCD 15693-3 : Contactless IC cards - Vicinity cards : Part 3 - Anticollision and transmission protocol
		近傍型コンタクトレス IC カード の衝突防止と伝送プロトコル
7	2000.6.26	FCD 14443-4 : Contactless IC cards – Proximity cards : Part 4 - Transmission protocol
		近接型コンタクトレス IC カード の伝送プロトコル
8	2000.7.24	NP for high coercivity, high density recording of magnetic stripe ID cards
		NP : 高保磁力高密度磁気記録磁気ストライプ ID カードの標準化
9	2000.7.24	FDIS 7813 : ID cards – Financial transaction cards
		ID カード—金融 取引きカード
10	2000.8.30	DIS 20060 : Open terminal specification – Virtual machine specification
		汎用端末機のアーキテクチャ仕様書—カード端末仕様書
11	2000.9.01	FCD 7811-1 : ID cards –Recording technique –Part 1:Embossing
		ID カード—記録技術—パート 1:エンボス
12	2000.10.13	Periodic review on 7816-4:IC cards with contacts:Part 4-Interindustry commands for interchange
		定期見直し : 情報交換のためのインターインダストリーコマンド
13	2000.10.13	Periodic review on 10536-2: Contactless IC cards –Close-coupled cards Part 2:Dimensions and location of coupling area
		定期見直し : コンタクトレス IC カード—パート 2:結合領域の寸法と位置
14	2000.10.13	FDIS 14443-2: Contactless IC cards – Proximity cards : Part 2 – Radio frequency power and signal interface
		近接型コンタクトレス IC カード の 電力伝送及び信号インターフェース
15	2000.10.13	FDIS 14443-3: Contactless IC cards – Proximity cards : Part 3 –Initialization and anticollison
		近接型コンタクトレス IC カード の初期化及び衝突防止
16	2000.10.13	FDIS 14443-4 : Contactless IC cards – Proximity cards : Part 4 - Transmission protocol
		近接型コンタクトレス IC カード の伝送プロトコル

17	2000.10.13	FDIS 11694-3 : Optical memory cards - Linear recording method-Part 3:Optical properties and characteristics
		光メモリカードー直線記録方式の光特性
18	2000.10.13	FDIS 10373-3 : ID cards – Test methods : Part 3– IC cards with contacts
		端子付 ID カードの試験方法ーパート 3 : 端子付 ICカード
19	2000.10.13	FDIS 7811-6:Identification cards–Recording technique -Part 6:Magnetic stripe – High coercivity
		識別カードー記録技術 パート 6 : 高保磁力磁気ストライプ
20	2000.10.13	FDIS 7811-2: Identification cards–Recording technique -Part 2:Magnetic stripe – Low coercivity
		識別カードー記録技術 パート 2 : 低保磁力磁気ストライプ
21	2000.10.13	CD 15457-1:Identification cards-Thin flexible cards-Part 1: Physical characteristics
		識別カード: 薄型フレキシブルカードの物理特性
22	2000.10.13	CD 15457-2:Identification cards-Thin flexible cards-Part 2: Magnetic recording technique
		識別カード: 薄型フレキシブルカードの磁気記録技術
23	2000.10.13	CD7816-5:IC cards with contacts–Part 5:Numbering system and registration procedure for application identifiers
		端子付 IC カード パート 5 : アプリケーションの番号付与システム及び登録手続き
24	2000.12.04	PDAM 7816-3/Amd.1: IC cards with contacts–Part 3/AM1:Electronic signals and transmission protocols-AM1- Electrical characteristics and class indication for IC cards operating at 5V, 3V and 1.8V
		端子付 IC カード パート 3 :電気信号及び伝送プロトコル-修正 1 - 5V, 3V 及び 1.8V 動作 IC カードの電气的特性及びクラス表示
25	2000.12.04	PDAM 7816-1/DAM1: IC cards with contacts – Part 1:Physical characteristics-AM1- Maximum height of the IC contact surface
		端子付 IC カード パート 1 :物理的特性-修正 1 : IC 端子面の最大高さ
26	2001.01.22	FDIS 15693-3 : Contactless IC cards - Vicinity cards : Part 3 - Anticollision and transmission protocol
		近傍型コンタクトレス IC カード の衝突防止と伝送プロトコル
27	2001.02.05	FDIS 10373-6 : ID cards – Test methods : Part 6 –Proximity cards
		ID カードの試験方法ーパート 6 : 近接型コンタクトレス IC カード
28	2001.02.05	FCD 10373-7 : ID cards – Test methods : Part 7 –Vicinity cards
		ID カードの試験方法ーパート 7 : 近傍型コンタクトレス IC カード
29	2001.02.05	FDIS 7813.2 : ID cards – Financial transaction cards
		ID カードー金融 取引きカード
30	2001.02.05	FCD 11694-4: Optical memory cards - Linear recording method-Part 3 : Logical data structure
		光メモリカードー直線記録方式の論理データ構造
31	2001.02.05	FCD 15457-1:Identification cards-Thin flexible cards-Part 1: Physical characteristics
		識別カード: 薄型フレキシブルカードの物理特性
32	2001.02.05	FCD 15457-2:Identification cards-Thin flexible cards-Part 2: Magnetic recording technique
		識別カード: 薄型フレキシブルカードの磁気記録技術
33	2001.02.05	CD 7816-15: IC cards with contacts –Part-15:Cryptographic token information in IC cards
		端子付 IC カードの情報トークン暗号アプリケーション

34	2001.02.05	CD 7816-11:IC cards with contacts-Part 11:Personal verification through biometric methods
		端子付 IC カードのバイオメトリクス個人認証
35	2001.02.05	DCOR 15693-2 : Contactless IC cards - Vicinity cards : Part 2 - Air interface and initialization
		近傍型コンタクトレス IC カードのエアーインタフェースと起動
36	2000.09.01	DIS 19839-1: Office machine-Machines for colour image reproduction Part 1:Method of specifying image reproduction of colour devices by digital and analog test charts-Classification and principle
		事務機械：カラー画像再生機器-パート1：デジタル及びアナログテストチャートを用いたカラー機器の画像再生特性の規定方法
37	2000.09.01	DIS 19839-2: Office machine-Machines for colour image reproduction Part 2:Method of specifying image reproduction of colour devices by digital input and analog output as hardcopy for colour image reproduction devices “digital-analog”(printers)-Realisation and application
		事務機械：カラー画像再生機器-パート2：デジタル入力及びアナログ出力（デジタル-アナログ画像再生機器即ちプリンタのハードコピー）によるカラー機器の画像再生特性の規定方法-実現と応用
38	2000.09.01	DIS 19839-3: Office machine-Machines for colour image reproduction Part 3:Method of specifying image reproduction of colour devices by analog input and digital output for colour image reproduction devices “analog-digital”(scanners)-Realisation and application
		事務機械：カラー画像再生機器-パート3：アナログ入力及びデジタル出力（アナログ-デジタル画像再生機器即ちスキャナ）によるカラー機器の画像再生特性の規定方法-実現と応用
39	2000.09.01	DIS 19839-4: Office machine-Machines for colour image reproduction Part 4:Method of specifying image reproduction of colour devices by digital input and analog output as softcopy for colour image reproduction devices “digital-analog”(monitors)-Realisation and application
		事務機械：カラー画像再生機器-パート4：デジタル入力及びアナログ出力（デジタル-アナログ画像再生機器即ちモニターのソフトコピー）によるカラー機器の画像再生特性の規定方法-実現と応用
40	2000.11.24	NP for Minimum information to be specified for Image Scanners-Part 2 (JTC1/SC28)
		新テーマ提案：イメージスキャナの仕様書様式
41	2000.11.24	NP for Method for optimizing image reproduction (JTC1/28)
		新テーマ提案：画像再生の最適化方法
42	2000.11.24	NP for Method of measuring print quality attributes for machine readable digital postage marks(JTC1/SC28)
		新テーマ提案：機械読み取り用 郵便（封筒）デジタルマークの画質評価方法
43	2000.11.24	NP for ISO 13660 Addendum on Calibration(JTC1/28)
		新テーマ提案：校正に関する ISO 13660 の修正
44	2000.11.24	NP for Image quality standards for printer systems(JTC1/SC28)
		新テーマ提案：プリンタシステムの画質標準
45	2000.11.24	NP for Quality and performance of office equipment that may contain reused components(JTC1/SC28)
		新テーマ提案：再使用部品を使用した事務機器の品質と性能

46	2000.11.24	NP for the determination of toner cartridge yield for monochromatic electrophotographic printers and multi-function devices that may contain printer components
		新テーマ提案：モノクロ電子写真プリンタ及びプリント機能付複合機器用カーリッジの寿命測定方法
47	2000.11.24	NP for Addition to IS 13660-Objective method for the measurement of Banding(JTC1/SC28)
		新テーマ提案：IS13660 への追加－バンディングの客観的測定方法
48	2000.11.24	NP for ISO/IEC 13660-2:Measurement of image quality attributes for hardcopy output-Large area colour images
		新テーマ提案：ISO/IEC 13660-2－ハードコピーの画質属性測定方法－広域カラー画像
49	2000.11.24	NP for Specification of reproduction properties and variations producing a 16-step equally spaced gray scale
		新テーマ提案：16段階の均等割グレースケールを生じさせて評価する再生特性値
50	2000.4.14	CA/1709/R : Report to the CA meeting
		CA 会議への報告に対するコメント要求への回答
51	2000.4.26	74/566/NP: Proposal for IEC 60950, Ed. 3 : Safety of information technology equipment – Part 2-1: Remote power feeding
		リモートパワーフィーディング
52	2000.6.30	74/568/CDV : Draft IEC 62102 TR Ed. 1 – Classification of interface for equipment to be connected to information and communications technology networks
		情報通信ネットワークに接続される装置のインタフェース分類
53	2000.10.31	74/578/CDV:Draft amendment to IEC 60950, Ed. 3
		IEC 60950 第3版の改訂
54	2001.03.01	74/584/NP:IEC 60950-1, Ed.4, 2001-Safety of information technology equipment-Part 2Y:Large IT equipment with integral robotics
		情報処理機器の安全－統合ロボットを有する大型機器
55	2001.03.01	74/585/NP : IEC 60950-1, Ed.4, 2001-Safety of information technology equipment-Part 2Z:Equipment installed outdoors
		情報処理機器の安全－屋外設置機器

(参考 2)

平成 12 年度(2000 年 4 月－2001 年 3 月)国際会議出席者リスト

(社) 日本事務機械工業会

委員会名	期間	開催場所	日本代表出席者
SC17	10－25/27	Yokohama, Japan	大山永昭(東工大)、林 義昭(大日本印刷)、寄本義一(凸版印刷)、大坪直彰(全銀協)、廣川勝久(GP Net)、田川 淳(工技院)、村松正男(共同印刷)、榊 純一(モトローラ)、木澤誠、大谷佳光(NTT)、高木義博(ソニー)、牧野忠由(松下通信)、斎藤八郎(大日本印刷)、吉岡隆雄(NTT データオフィススマート)、荻部 浩(TDK テクノ)、平山和博(JBMA) 野原三郎(JBMA)
SC17/WG1	06－06/08	Toronto, Canada	寄本義一(凸版印刷)、中沢 明(三協精機)、嶽 精二(大日本印刷)
	10－23/25	Yokohama, Japan	寄本義一(凸版印刷)、中沢 明(三協精機)、嶽 精二(大日本印刷)、田川 淳(工技院)
	03－06/08	Berlin, Germany	寄本義一(凸版印刷)、中沢 明(三協精機)、
SC17/WG3	05－24/26	Ottawa, Canada	寄本義一(凸版印刷)、榊 純一(モトローラ)、伴 弘司(NTT)、斎藤八郎(大日本印刷)
	10－22/25	Yokohama, Japan	寄本義一(凸版印刷)、榊 純一(モトローラ)、斎藤八郎(大日本印刷)、伴 弘司(NTT)、渡部正雪(外務省)
	02－14/16	Northern Province, South Africa	寄本義一(凸版印刷)、榊 純一(モトローラ)、斎藤八郎(大日本印刷)、伴 弘司(NTT)、平山和博(JBMA)
SC17/WG4	06－26/30	Tuebingen, Germany	村松正男(共同印刷)、寄本義一(凸版印刷)
	11－29/12－01	London, UK	出席者なし
	03－26/30	Boston, USA	寄本義一(凸版印刷)
SC17/WG5	05－09/10	Copenhagen, Denmark	大坪直彰(全銀協)
	10－23	Yokohama, Japan	大坪直彰(全銀協)

SC17/WG8	07-10/14	Copenhagen, Denmark	大谷佳光 (NTT)、沖田利通 (ソニー)、 榊純一 (モトローラ)、荻部 浩 (TDK テクノ)
	10-31 11-01/02	Yokohama, Japan	大谷佳光 (NTT)、荻部 浩 (TDK テクノ)、高 木義博 (ソニー)、榊純一 (モトローラ)
	02-27/ 03-01	Singapore	大山永昭 (東工大)、大谷佳光 (NTT)、荻部 浩 (TDK テクノ)、高木義博 (ソニー)、榊純一 (モ トローラ)
SC17/WG9	09-13	London, UK	吉岡隆雄 (NTT データオフィススマート)、 斎藤八郎 (大日本印刷)、野原三郎 (JBMA) 堀口俊夫 (オリンパス光学)、平山和博 (JBMA)
SC17/WG10	06-26/28	Munich, Germany	牧野忠由 (松下通信)、榊 純一 (モトローラ)、 寄本義一 (凸版印刷)、山本和毅 (警察庁)
	10-19/20	Yokohama, Japan	牧野忠由 (松下通信)、榊 純一 (モトローラ)、 寄本義一 (凸版印刷)、山下 等 (警察庁)、 山下充夫 (東芝)、斎藤八郎 (大日本印刷)、 山本和毅 (警察庁)
	02-19/21	Northern Province, South Africa	榊 純一 (モトローラ)、牧野忠由 (松下通信) 寄本義一 (凸版印刷)、山下 等 (警察庁)
SC17 Biometrics	09-11	London/UK	吉岡隆雄 (NTT データオフィススマート)、 斎藤八郎 (大日本印刷)、寄本義一 (凸版印刷)、 牧野忠由 (松下通信)
SC28	06-05/09	Berlin, Germany	山田尚勇 (中京大)、竹信秀俊 (キヤノン)、 伊藤 丘 (JBMA)、伊藤哲也 (ミノルタ)、 稲垣俊彦 (富士ゼロックス)、小浜弘明 (富士ゼ ロックス)、大久保彰徳 (リコー)、 村井和夫 (リコー)、平山和博 (JBMA) 野原三郎 (JBMA)、小原道郎 (JBMA)

(注)WD,CD,FCD,FDISは投票開始予定日を示す。

規格番号	規格の名称	現状(実績)	今後の計画(見通し)					JBMS/JIS	
			WD	CD	FCD	FDIS	Pub.		
SC17	7501-1	機械可読旅券	IS発行						未定
	7501-2	機械可読ビザ	IS発行						未定
	7501-3	機械可読旅行文書の寸法	IS発行						未定
	7810	IDカードの物理特性	IS改訂			00.03	00.09	01.02	JIS
	7811-1	IDカードのエンボス	IS改訂		00.03	00.09	01.03	01.08	X6301,630
	7811-2	IDカードの磁気ストライプ	IS改訂			00.03	00.09	01.02	2及び6302
	7811-3	IDカードのエンボス文字の位置	IS改訂	7811-2及び6に編入					補足版改訂必要
	7811-4	リードオンリーIDカードの磁気ストライプ位置:トラック1及び2	IS改訂						
	7811-5	リードオンリーIDカードの磁気ストライプ位置:トラック3	IS改訂						
	7811-6	高保磁力磁気ストライプカード	IS改訂			00.03	00.09	01.02	
	7812-1	カード発行者番号付与システム	IS改訂			99.06	00.04	00.09	JBMS/JIS
	7812-2	カード発行者番号申請登録手続	IS改訂			99.06	00.04	00.09	化不要
	7813	金融取引用IDカード	IS改訂			99.12	00.11	01.03	
	7816-1	端子付ICカードの物理特性	IS改訂	AM1		01.05	01.12	02.04	JIS X 6303
	7816-2	端子付ICカードの端子の位置・寸法	IS改訂						改訂必要
	7816-3	端子付ICカードの電気信号とプロトコル	IS改訂	AMD1	00.12				JIS X6304
	7816-3	低電圧型ICカード	CD投票		00.12	01.05	01.12	02.04	改訂必要
	7816-3	AM1							
	7816-3	AM2		01.03	01.09	02.05	02.11	TBD	
	7816-3	AM3		01.06	01.12	02.05	02.11	TBD	
	7816-4	業際間の共通コマンド	IS改訂					95.09	JIS X6306
	7816-4	AM1	APDU構成のセキュアメッセージング	IS制定				97.12	
	7816-5	ICカードの国際利用管理システム	IS改訂					0.06	JIS X6308
	7816-6	利用業務提供者の識別(RIDs)	IS改訂	01.09	02.01	TBD	TBD	TBD	JIS X 6307
	7816-6	AM1	IC製造者の付番システム	IS制定				00.12	
	7816-7	ICカードのSCQL用共通コマンド	IS制定					99.03	未定
	7816-8	ICカードのセキュリティアーキテクチャと関連インタインダストリーコマンド	IS制定					99.10	H12 JIS化 by JICSAP
	7816-9	追加コマンドとセキュリティアトリビュート	IS制定			99.12	00.07	00.12	
	7816-10	同期式カードの操作手順とATR	IS制定					99.11	
	7816-11	バイOMETリック手法による個人識	CD投票	00.02	00.10	01.12	02.04	02.05	未定
7816-15	ICカードにおける暗号トークン情報	CD投票	00.04	00.12	TBD	TBD	TBD	未定	
10373-1	IDカードの試験方法通則	IS発行						H13 JIS X	
10373-2	磁気カードの試験方法	IS発行						6305改訂	
10373-3	ICカードの試験方法	CD投票		99.10	00.04	00.10	01.02	by JBMA	
10373-4	コンタクトレスICカードの試験方法	中止							
10373-5	光メモリーカードの試験方法	IS発行							
10373-6	近接型ICカードの試験方法	IS発行待ち			00.04	00.10	TBD	H12 JIS化	
10373-7	近傍型ICカードの試験方法	IS発行待ち			00.04	00.10	TBD	by JICSAP	
10536-1	コンタクトレスICカードの物理特性	IS改訂			99.05	00.04	00.10	JIS X 6321-1改訂必要	
10536-2	コンタクトレスICカードの結合領域	IS発行						JIS X 6321-2	
10536-3	コンタクトレスICカードの電子信号	IS発行						JIS X 6321-3	
10536-4	コンタクトレスICカードの初期応答と	中止							
11693	光メモリーカード通則	IS改訂		99.01	99.09	00.03	00.04	JIS X 6330	
11694-1	直線記録方式光メモリーカードの物理特性	IS改訂		99.01	99.09	00.03	00.04	H12改訂	
11694-2	直線記録方式光メモリーカードの光領域位置寸法	IS改訂		99.01	99.09	00.03	00.04		
11694-3	直線記録方式光メモリーカードの光特性	IS改訂			00.03	00.12	01.02		
11694-4	直線記録方式光メモリーカードの論理方式	IS改訂			01.03	01.06	01.07	JIS X 6331	

規格番号	規格の名称	現状(実績)	今後の計画(見通し)						
			WD	CD	FCD	FDIS	Pub.	JBMS/JIS	
SC17	14443-1	近接型ICカードの物理特性	IS発行			00.04	00.10	01.03	H12 JIS化 by JICSAP
	14443-2	近接型ICカードの電波出力と信号 インタフェース	IS発行待ち			00.04	00.10	01.03	
	14443-2 AM1	追加オプションの信号インター フェース	CD投票		01.03	01.08	01.12	02.03	
	14443-3	近接型ICカードの初期化と衝突防 止	IS発行			00.04	00.10	01.03	H12 JIS化 by JICSAP
	14443-4	近接型ICカードの伝送プロトコル	FDIS		00.04	00.10	01.03	01.08	未定
	14543	機械可読旅行カード	NP承認	TBD	TBD	TBD	TBD	TBD	ICAO待ち
	15457-1	薄型カードの物理特性	FCD投票		00.03	00.11	01.04	01.09	
	15457-2	薄型カードの磁気記録方式	FCD投票		00.03	00.11	01.04	01.09	
	15457-3	薄型カードの試験方法	WD		00.03	00.11	01.04	01.09	
	15693-1	近傍型ICカードの物理特性	IS発行					00.07	H12 JIS化 by JICSAP
	15693-2	近傍型ICカードの電波出力と信号 インタフェース	IS発行				00.04	00.10	
	15693-3	近傍型ICカードの衝突防止と通信 プロトコル	IS発行待ち		00.04	00.10	01.02	01.08	H13 JIS化 by JICSAP
	15693-4	近傍型ICカードの拡張コマンド	WD		00.11	01.06	01.10	02.03	
	18013-1	運転免許証の国際互換データセット	WD	01.10	02.03	02.09	03.03	03.05	
	18013-2	データ要素の技術相関性	WD	01.10	02.03	02.09	03.03	03.05	
18013-3	バイオメトリックと暗号化	WD	01.10	02.03	02.09	03.03	03.05		
SC28	10561	クラス1, 2プリンタのスループット測 定方法	IS改訂版発 行					99.05	JBMS/JIS 化不要
	11159	複写機仕様書様式	IS発行						H13 JIS化 (JIS化後 ISに反映 予定)
	11160-1	クラス1, 2プリンタの仕様書様式	IS発行						JBMS/JIS 化不要
	11160-2	クラス3, 4プリンタの仕様書様式	IS発行						JIS B 9527
	13660	モノクロ画質絶対評価方法	IS制定発行 待ち				済(97)	TBD	H12 JIS化 (JISX6930)
	14473	イメージスキャナ仕様書様式	IS発行						JEITA担当
	14545	複写生産性測定方法	IS発行						H12 JIS化
	15404-1	ファクシミリのコンセプトと分類	IS制定発行 待ち					TBD	CIAJ担当
	15404-2	ファクシミリ送信文書の必要条件	IS制定発行 待ち					TBD	CIAJ担当
	15404-3	ファクシミリ受信文書の必要条件	IS制定発行 待ち					TBD	CIAJ担当
	15775	複写機用カラーテストチャート	IS発行						H13 JIS化 (ISも改訂 予定)
	未定	機械可読デジタル郵便マークの印 字品質属性	NP承認	01.05					
	未定	13660修正一較正用テストチャート	NP承認	01.05					
	未定	プリンタシステムの画像品質	NP承認						
	未定	リユース部品を含むオフィス機器の 品質と性能	NP承認	01.05					
	未定	モノクロ電子写真プリンタ及びプリ ント機能付き複合機器用トナーカート リッジの寿命決定方法	NP承認	01.05					
	未定	13660修正一むら	NP承認						
未定	13660修正一広面積カラー画像 ハードコピーの画質測定	NP承認	01.05						
未定	15775修正一アジア版テストチャート	NP申請予							

規格番号	規格の名称	現状(実績)	今後の計画(見通し)					JBMS/JIS	
			NP	CD	CDV	FDIS	Pub.		
第74委員会	IEC60950	情報処理機器の安全及びエネルギー効率(第3版)	Amd.1検討中			00.05	TBD		第2版のJIS制定の目処が立ち次第、審議を開始する。
		パート2Y: ロボット工学を必須とする大型IT機器	NP投票中	01.01					
		パート22: 屋外設置機器	NP投票中	01.01					
	IEC60990	タッチカレント測定方法	IS発行						H12 JIS化
	IEC62151	電気通信網接続機器の安全性通	FDIS発行				00.03	TBD	正式規格
	IEC62018	エネルギーマネジメント要求事項	CDV発行			00.04	TBD	TBD	
	IEC62102	インターフェースの分類	CDV発行			00.04			